九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

日中同形語辞典の問題点及びその改善策をめぐって

王，燦娟
九州大学大学院芸術工学研究院コミュニケーションデザイン科学部門 ： 学術研究員

https://doi.org/10.15017/1500391

出版情報：芸術工学研究. 22, pp.59-65, 2015-03-26. 九州大学大学院芸術工学研究院
バージョン：
権利関係：

研究報告

受付日：2014 年 11 月 26 日、受理日：2015 年 2 月 10 日

日中同形語辞典の問題点及びその改善策をめぐって

On Problems of Japanese/Chinese Homograph Dictionaries and The Remedial Measures

王　燦娟[1]
WANG Canjuan

Abstract

This study is an attempt to analyze problems of Japanese/Chinese homograph dictionaries and give remedial measures. In addition, the nature of Japanese/Chinese homograph dictionaries, which are helpful in learning and researching both Japanese and Chinese, is also presented. The analyses lead to the following conclusions: ①as Japanese/Chinese homographs with exactly the same meanings or with completely different meanings are very rare, a title like “A Dictionary of Japanese/Chinese Homographs with Different Meanings” should be avoided. Instead, a more precise title like “A Dictionary of Japanese/Chinese Homographs” should be used; ②as there are many mistranslations in the interpretations of words and in the example usage in all the (already published) Japanese/Chinese homograph dictionaries, the accuracy and understandability of translations needs to be pursued. Besides, marked differences in use frequency of an headword between Japanese and Chinese need also to be mentioned;③as grammatical misuses are very common, the part of speech should be specified. Especially for headwords with multiple meanings and/or multiple parts of speech, it’s necessary to specify those parts of speech according to the meaning; ④as misuses in collocations and phrases are also very common, notable differences in those two aspects between the two languages need to be emphasized.

連絡先：王　燦娟，wangcanjuan06@yahoo.co.jp
1 九州大学大学院芸術工学研究院　コミュニケーションデザイン科学部門
学術研究員
Postdoctoral Research Fellow, Department of Communication Design Science, Faculty of Design, Kyushu University.

1. はじめに

日中同形語[1)]に関する研究は、日本と中国でほぼ同じ時期（1970 年代）から始まったようである。1990 年代以来、日本人中国語学習者と中国人日本語学習者の増加に伴い、双方の学習者が混同しやすい同形語、例えば、「勉強」、「先生」、「遠慮」、「迷惑」等に関する日中対照研究が盛んに行われている。これらの日中対照研究は定性的研究と定量的研究に分けられるが、定量的研究の成果として、日中両国では日中同形語辞典が数多く出版されている。これらの辞典は日本人中国語学習者と中国人日本語学習者に便宜を与えているが、その問題点も少なくない。しかし、それらの問題点に触れた先行研究はほとんどないようである。本研究では、日中両国で出版された代表的な日中同形語辞典の問題点を究明した上で、改善策を考案し、日中両言語の学習及び研究により役立つ日中同形語辞典の全体像を示したい。

2. 日中同形語辞典及びその問題点

2.1 代表的な日中同形語辞典

上述したように、1990 年代以来、日中両国では日中同形語辞典が数多く出版されている。以下、日中同形語に関する対照研究や習得研究においてよく取り上げられている代表的な辞典、専門書を表 1 に示す(※④は辞典ではないが、その編集目的及び内容、形式は各日中同形語辞典と大同小異であるので、専門書と見なして本研究の考察対象とする)。

表１　代表的な日中同形語辞典

	出版年度	辞典名	出版社	編集者	収録語数
①	1995	日漢同形詞辨異詞典	商務印書館	王健宜・王彦良	407
②	1995	覚えておきたい日中同形異議語 300	光生館	上野恵司・魯暁琨	300
③	2004	日漢同形異義詞詞典	外語教学与研究出版社	黄力游・林翠芳	500
④	2004	日中ことばの漢ちがい	くろしお出版	張麟声	130
⑤	2005	日漢同形異義詞詞解	中国建材工業出版社	秦明吾	3000
⑥	2007	日中同形異義語辞典	東方書店	王永全・小玉新次郎・許昌福	1400
⑦	2011	日中同形異義語 1500	国際語学社	郭明輝・磯部祐子・谷内美江子	1525

上表の①、③、⑤は中国で出版されたものであり、②、④、⑥、⑦は日本で出版されたものである。また、各辞典の収録語数はまちまちである。

項目の立て方については、大別して２つある。１つは見出し語の日中両言語の意味をそれぞれ取り上げた上で、「解説」という下位項目を設け、用例と結びつけて日中両言語の異同を説明する方法である。その具体例を以下に示す[2)]（下線部は筆者が訳したものである）。

［日］元気（げんき）→①精力旺盛；精神饱满（活動の源になる気力）。
②健康；身体好（健康な様子）。
［汉］元气→指人或国家、组织的生命力（人間・国・組織などの生命力。活力）。

解释

日汉这两个词的区别在于：日语的“元気（げんき）”有两个义项，意思分别是“精力旺盛”和“身体健康”，所指的对象一般是人；汉语“元气”的意思是“生命力”，所指的对象既可以是人，也可以是国家或组织。另外，日语中用“元気（げんき）”来问候人是很独特的用法，如“お元気（げんき）ですか（您身体好吗？）”。

（解説

日中両言語の意味の区別：日本語の「元気」には、「活動の源になる気力」、「健康な様子」という 2 つの意味がある。一般的に言えば、その主語は人間のみである。それに対し、中国語の「元気」の意味は「生命力」であり、その主語は人間・国・組織である。また、日本語の「元気」は人と挨拶する時によく使われる語である。例えば、「お元気ですか」。）

●日：どうした、元気がないね。（你怎么了？无精打采的。）
●日：どうぞお元気で。（请多保重。）
●中：不伤元气。（活力を失わない。）
●中：恢复元气。（元気を回復する。）

もう１つは見出し語の日中両言語の意味と用例をそれぞれ取り上げた上で、同じ意味に［同義］を示す符号を付け、異なる意味に［異義］を示す符号を付ける方法である。その具体例を以下に示す[3)]。

日 **家事**【かじ】❶［同］家庭内の事情：家事。¶ 家事の都合/家事的安排。Jiāshì de ānpái.❷［異］炊事・洗濯など家庭内の暮らしに関するいろいろな仕事：家务。家务事。¶ 家事に追われる/，忙于家务 mángyú jiāwù.¶ 仕事と家事を両立させる/使工作家务两不误 shǐ gōngzuò jiāwù liǎng bù wù.
中 **家事**【Jiāshì】［同］日本語の❶と同じ。

2.2 主な問題点

既述したように、上記の各辞典は日中同形語に関する対照研究や習得研究においてよく取り上げられているが、その問題点に関する先行研究はほとんど見られない。

林(2002)では、台湾で出版された日華・日漢辞典(代表的な4冊のみ)[4]を考察し、その中の日中同形語に関する記述の問題点を以下のように指摘している。

「今回調査した語の記述の問題点は、「A 訳語の問題」、「B 誤訳と不適切な説明」、「C 意味項目の立て方」などといった意味に関する問題が顕著であるが、「D 用例及び典型的な文型の提示」、「E 品詞の提示が不十分である」などといった文法に関する問題も見られる。」[5]

実際に類似する問題点は表1で取り上げた代表的な日中同形語辞典にも見られるが、それに触れた先行研究はないようである。本研究では、それらの問題点を明示した上、改善策を提示する。

以下、まず各々の問題点を詳細に述べていくが、紙幅の関係で、あらゆる辞典のあらゆる問題点を全て取り上げることができないので、典型的な問題点だけに絞り、具体例を取り上げながら説明していく。

(1)辞典名に厳密さが欠けている点について

表1に示した②、③、⑤、⑥、⑦はその名称から分かるように、日中同形異義語辞典であるが、①と⑤の名称には「異義」がないが、①の「辨異」(相違を弁別する)と⑤の「漢ちがい」(「勘違い」の同音異義語)からすると、①と⑤の名称も日中同形異義語辞典と捉えて良い。

しかし、実際にこれらの辞典に収録された語は全て日中同形異義語ではない。例えば、⑤は収録語数が最も多いが、その中に収録された語には日中同形語以外に、「炎上」、「大黒柱」、「親指族」、「青色申告」、「一姫二太郎」等、中国語にそもそも存在しないものも数多くある。明らかにこれらの語を同形語と命名することができない。また、②では、収録された語は「a 意味・用法にほとんど関係のない同形語、b 意味・用法の近似している同形語、c 意味の一部分が共通である同形語」の3種類に分類されている。また、b と c は約収録語数の2/3を占めている。明らかにbとcを日中同形異義語と命名することができない。さらに、残りの①、③、④、⑥、⑦に収録された語の中にも②のbとcが数多くある。従って、①～⑦を「日中同形異義語辞典」と命名するのは相応しくないと考える。

拙稿『品詞と意味における二重誤用されやすい日中同形語』[6]でも述べたように、意味が完全に同じ或いは完全に異なる日中同形語は非常に少ないため、「日中同形同義語、日中同形異義語」という従来の分類方法は厳密さに欠けている。

(2)見出し語の語釈及び用例に不備や遺漏がある点について

以下、「工作」という語を例に説明する。

中国語の「工作」には、「a 職業、職種。b 働くこと(肉体労働・頭脳労働を含む)。仕事をすること。c 機械が動く/作業をすること。d 広く仕事、業務、任務、活動、運動などを指している」という4つの意味がある。従って、表1の①の王・王(1995)が意味も品詞も異なる「勤劳(qín láo)」(勤勉)と「工作(gōngzuò)」自体を中国語の「工作」の語釈に入れたのは正しくない。また、中国語の「工作」は中性語[7]なので、氏らの「中国語の『工作』は褒義語としてのみ用いる」[8]という説明も正しくない。さらに、同辞典における中国語の「工作」で構成される常用連語の日本語訳も相応しくない(表2参照。※(誤)は同辞典における誤訳であり、(正)は筆者が修正したものである)。

表2　王・王(1995)の誤訳例

工作能力→ (誤)労働能力 (正) 仕事の能力	工作效率→ (誤)労働生産性 (正) 仕事の効率	工作人员→ (誤)公務員 (正)スタッフ、職員
工作条件→ (誤)労働条件 (正)職場環境	思想工作→ (誤)思想工作 (正) a 説得活動、働きかけ b 思想宣伝活動	

また、表1の④の張(2004)は中国語の「工作」が日本語の「工作」に近い意味を持っていることを説明するために、「地下工作」の例を取り上げたのは相応しくない。中国語の「地下工作」は「a 密かに革命運動に従事する、b 密かに非合法的な仕事や活動に従事すること」という2つの意味を持っているが、前の段落から分かるように、「工作」は中性語であるので、「地下」と結びつかなければ、「地下工作」全体の意味を表すことができない。しかし、日本語の「工作」はマイナスなイメージを表すこと

ができるので、「裏工作」の略として用いられる。従って、中国語の「工作」と言うより、中国語の「地下工作」のほうが日本語の「工作」に近い意味（密かに…をする）を持っていると言うべきであろう。

それ以外に、表１の③の黄・林(2004)が「特工」(スパイ)を日本語の「工作」の意味として取り上げたのも正しくない。また、⑤の秦(2005)では、中国語の「工作」の意味を「仕事をする。働く」とだけ解説しており、⑦の郭他(2011)では、中国語の「工作」の意味を「a 機械などが仕事すること。b 人が仕事をすること。また、その仕事」とだけ解説している。②の上野・魯(1995)には、そもそも「工作」が収録されていない。全体的に見れば、7 冊もの代表的な日中同形語辞典(専門書)では、日中両国語の「工作」の意味を正しく解説しているものは⑥の王他（2007）しかない。

もちろん、語釈及び用例に不備や遺漏がある単語は「工作」以外にも数多くある。例えば、⑥の王他（2007）の単語の語釈には、よく使われる意味が収録されていないのに対し、滅多に使われない意味が収録されている等の遺漏や不備が散見されている。例えば、中国語の「下手」の場合、「a 殺害する、傷つける」という意味はよく使われるのに対し、「b 地位の低い人の座る席、下座」という意味は滅多に使われないが、同辞典には a は収録されておらず、b は収録されている[9]。紙幅の関係で、同じ問題点が存在する単語を逐一列挙することはしない。

(3) 見出し語の品詞が誤っているか、あるいは記載されていない点について

先行研究[10]及び筆者の考察によると、意味の相違による日中同形語の誤用は初級、中級の日本人中国語学習者と中国人日本語学習者によく見られるのに対し、品詞の相違による日中同形語の誤用は初級、中級だけでなく、上級学習者にもよく見られる。しかし、表１に示した代表的な日中同形語辞典の中では、①の王・王（1995）と⑤の秦(2005)を除き、残りの辞典には見出し語の意味が詳細に記載されているが、その品詞が記載されていない。また、①と⑤の品詞表示にも不足や不備が散見される。例えば、①では、「辨異」(相違を弁別する)という下位項目に極僅かな日中両言語の品詞しか記載されていない。⑤では、各見出し語の直後にその日本語の品詞しか記載されていない。そして、その記載には遺漏や誤りが散見される。例えば、日本語の「最近」には名詞以外に、副詞の用法もあるが、⑤の品詞欄には「名詞」しか記載されていない[11]。紙幅の関係で、同じ問題点が存在する単語を逐一列挙することはしない。

(4) 共起、位相の相違にほとんど触れていない点について

既述のように、品詞の相違による日中同形語の誤用は初級、中級だけでなく、上級の日本人中国語学習者と中国人日本語学習者にもよく見られる。実際に共起の相違[12]や位相の相違[13]による日中同形語の誤用についても同じことが言える[14]。しかし、上記の各辞典の語釈や下位項目では、共起、位相の相違についてほとんど触れられていない。もちろん、共起、位相は意味、品詞と異なり、比較的複雑な概念であるため、それらの相違は辞典の語釈やサブ項目だけでは述べきれないが、豆知識等のような形式で誤用研究の成果を取り入れ、よく見られる誤用例及びそれに対する訂正だけでも載せれば、より有効に誤用を防止できるであろう。

3. 改善策

辞典は編集目的によって形式と内容が異なるが、日中両国で出版された日中同形語辞典の主な編纂目的は同形語における日中両言語の異同を明示し、日本人中国語学習者と中国人日本語学習者の誤用を防止することにあるので、より良くその目的を達成するために、以下の改善策を考案した。

(1) 前述したように、意味が完全に同じ或いは完全に異なる日中同形語は非常に少ないため、「日中同形異義語辞典」のような名称を避け、「日中同形語辞典」と命名したほうがより厳密である。また、意味の異同により日中同形語を大別したい場合、「日中同形同義語、日中同形異義語」という従来の分類方法を避け、以下の分類方法[15]を用いれば良いであろう。

Same、Similar（SS 型）：意味の同じ或いは近い語
Overlap（O 型）：意味の部分的に重なる語
Different（D 型）：意味の異なる語

その中では、O 型はさらに以下のように下位分類できる。

O1 型：両国語における意味の一部が重なっているが、日本語にほかの意味があるもの

02 型：両国語における意味が一部重なっているが、中国語にほかの意味があるもの

03 型：両国語における意味が一部重なっているが、それぞれほかの意味があるもの

実際に各見出し語の語釈を付ける際に、まず上記の分類方法に従い、当該見出し語の横にその種類(SS 型、0 型(01 型、02 型、03 型)、D 型)を明示し、次に意味ごとに［異義］、［同義］、［類義］、［部分的に重なる］等を表す記号(例えば、［異］、［同］、［類］、［重］等)で日中両言語間の異同を強調すれば、より分かりやすいだけでなく、学習者への注意喚起もできるであろう。

(2)各見出し語の語釈を付ける際に、日中両国に権威がある国語辞典や日中・中日辞典(表 3～表 6 に示すもの)を参照すべきであるが、日中同形語辞典の語釈や用例における日中・中日対訳が多いため、従来の辞典の誤った訳語が援用されないように、訳語の正確さ、分かり易さを期すべきである。また、見出し語の日中両言語における使用頻度が明らかに異なる場合、日本人中国語学習者と中国人日本語学習者の母語干渉による誤用を防止するために、［補足］や［異同分析］等のサブ項目を立て、追加説明を行ったほうが良いであろう。例えば、中国語の「意思」は使用頻度が非常に高い多義語であるのに対し、日本語の「意思」は使用頻度が低く、意味が単一でニュアンスも硬い語である。このような相違は語釈のみでは分かりにくいので、下位項目を立てて簡潔に説明し、学習者の注意を喚起する必要があると考えられる。

表 3 日本の国語辞典

出版年度	辞典名	出版社	編集者	収録語数
2005	日本国語大辞典（精選版）	小学館	小学館国語辞典編集部	30 万
2006	大辞林（第三版）	三省堂	松村明	23 万 8 千
2008	広辞苑（第六版）	岩波書店	新村出	24 万

表 4 中国の国語辞典

出版年度	辞典名	出版社	編集者	収録語数
2008	現代漢語詞典（第五版）	商務印書館	中国社会科学院語言研究所詞典編輯室	6 万 5 千
2010	漢語大詞典（補訂版）	上海辞書出版社	漢語大詞典編纂所	37 万 5 千
2010	辞海（第六版）	上海辞書出版社	夏徵農・陳至立	12 万 7 千

表 5　日本で出版された中日辞典

出版年度	辞典名	出版社	編集者	収録語数
2010	中日大辞典（第三版）	大修館書店	愛知大学中日大辞典編纂所	14 万
2002	中日辞典（第二版）	小学館	商務印書館・小学館	10 万

表 6　中国で出版された日中辞典

出版年度	辞典名	出版社	編集者	収録語数
2002	日漢大辞典（第一版）	上海訳文出版社	講談社	18 万
2011	日漢辞海（第一版）	遼寧大学出版社	王興閣	20 万

(3)品詞の相違による誤用が多発するため、品詞を表示する必要がある。特に見出し語に複数の意味と品詞がある場合、意味ごとにその品詞を明記したほうがより厳密で、誤用を防止することができると考えられる。以下、「工作」を例に実際のイメージを示す(用例省略)。

日 ①[異](名詞・他動詞)簡単な器物を作ること。また、それを学ぶ学科。②[異]（名詞）土木・建築・製造などの工事や作業。③[異]（名詞・他動詞）ある目的を達するために、前もって他に働きかけたり、計画をめぐらしたりして下準備すること。

中 ①[異](名詞)職業、職種。②[異]（自動詞）働くこと（肉体労働・頭脳労働を含む）。仕事をすること。③[異]（自動詞）機械が動く/作業をすること。④[異]（名詞）広く仕事、業務、任務、活動、運動などを指している。

(4) 共起、位相の相違による誤用も多発するため、紛らわしい見出し語については、下位項目を立てて日中両言語間の相違について説明する必要がある。例えば、日本語と中国語の「保持」は同じ意味(保ちつづける)と同じ品詞(他動詞)で使用される際に、中国語では「保持清潔」と言えるのに対し、日本語では「清潔さを保持する」とは言えずに、「清潔さを保つ」と言う。また、日本語と中国語の「愉快」、「困難」はナ形容詞として使用される際に同じ意味を表すが、日本語の「愉快」、「困難」は文章語であるのに対し、中国語の「愉快」、「困難」は文章語、日常語の両方として用いられる。前述したように、共起、位相は意味、品詞と異なり、比較的複雑な概念であるため、それらの相違は辞典の語釈や下位項目だけでは述べきれないが、豆知識等のような形式で誤用研究の成果を取り入れ、よく見られる誤用例及びそれに対する訂正だけでも載せれば、注意喚起及び誤用防止の効果があると考えられる。

また、ほとんど全ての日中同形語は日中語彙交流による産物であるので、『日本国語大辞典』のように「語誌」という下位項目を立てると、見出し語の日中両国における定着経緯が明らかになるだけでなく、日中同形語辞典自体の機能と価値(関連研究に役立つ等)を増やすこともできるであろう。例えば、「工作」の場合は、以下の語誌を付ければ良いであろう。

語誌

「工作」の語源は『後漢書・皇後紀上・和熹鄧皇後』にあり、本来の意味は「①土木・建築工事」である。それから次第に「②製造、③働くこと(肉体労働・頭脳労働を含む)、④仕事・活動・業務、⑤職人」という意味を持つようになった。明治初期に、①②を意味する「工作」が中国の英華辞書や洋学書を通じて日本に伝わった。昭和初期に④を意味する「工作」が主に経済、外交、軍事に関する新聞記事を通じて日本に再移入され、当時の流行語になった(「字形一括、意味分割」の特殊な輸入過程と言える)。また、短い「意味的に中立的な時期」を経て、「裏の、陰で行なわれるもの」というマイナスのニュアンスが加わった。

それに対し、中国語の「工作」は①②⑤の意味が次第に消失してしまい、③④の他に、「機械が動く/作業をすること」(③の転義)と「職業」(⑤の派生義)の意味を持つようになり、意味的に中立的な語として使われている。

4. 終わりに

本研究では、先行研究で言及されていない、日中両国で出版された代表的な日中同形語辞典の問題点を究明した上で、それらの問題点に対する改善策を考案し、日本人中国語学習者と中国人日本語学習者及び日中同形語の研究者に役立つ日中同形語辞典の全体像を示した。結論として、以下のことが分かった。

(1) 意味が完全に同じ或いは完全に異なる日中同形語は非常に少ないため、「日中同形異義語辞典」のような名称を避け、「日中同形語辞典」と命名したほうがより厳密である。また、実際に各見出し語の語釈を付ける際に、当該見出し語の横にその種類(SS 型、0 型(01 型、02 型、03 型)、D 型)を明示し、次に意味ごとに[異義]、[同義]、[類義]、[部分的に重なる]等を表す記号(例えば、[異]、[同]、[類]、[重]等)で日中両言語間の異同を強調すれば、より分かりやすいだけでなく、学習者への注意喚起もできる。

(2) 各見出し語の語釈を付ける際に、日中両国に権威がある国語辞典や日中・中日辞典を参照すべきであるが、日中同形語辞典の語釈や用例における日中・中日対訳が多いため、従来の辞典の誤った訳語が援用されないように、訳語の正確さ、分かり易さを追及すべきである。また、見出し語の日中両言語における使用頻度が明らかに異なる場合、日本人中国語学習者と中国人日本語学習者の母語干渉による誤用を防止するために、[補足]や[異同分析]等のサブ項目を立て、追加説明を行ったほうが良い。

(3) 品詞の相違による誤用が多発するため、品詞を表示する必要がある。特に見出し語に複数の意味と品詞がある場合、意味ごとにその品詞を明記したほうがより厳密で、誤用を防止することができる。

(4) 共起、位相の相違による誤用も多発するため、紛

らわしい見出し語については、豆知識等のような形式で誤用研究の成果を取り入れ、よく見られる誤用例及びそれに対する訂正だけでも載せれば、注意喚起及び誤用防止の効果がある。

また、「語誌」を付けることにより、見出し語の日中両国における定着経緯が明らかになるだけでなく、日中同形語辞典自体の機能と価値(関連研究に役立つ等)を増やすこともできる。

注

[1] 大河内康憲（1992）によれば、「文化，経済，克服，普通」のような二字（ときには三字以上）の字音語で、表記のみならず語構成にも共通性があり、しかも歴史的に借用関係が存在するものが日中同形語である。また、同形語といっても字体が全く同じとは限らない。例えば、「経済」と「经济」、「緊張」と「紧张」のように、字体に差異がある場合は中国語の簡体字をもとの繁体字に戻して同形語と見なす。しかし、三字以上の漢字語はほとんど「接頭辞＋二字漢語（語基)」、「二字漢語（語基）＋接尾辞」或いは四字熟語なので、これまでの日中同形語に関する先行研究は主に二字漢語を中心に行われていた。

[2] 王健宜・王彦良（1995)『日漢同形詞辨異詞典』, pp. 114-115，商務印書館

[3] 王永全・小玉新次郎・許昌福（2007)『日中同形異義語辞典』, p. 46，東方書店

[4] 『大明新解日華辞典』、『万人現代日華辞典』、『永大簡明日華辞典』、『新時代日漢辞典』。

[5] 林玉恵(2002)「日華・日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点：同形類義語を中心に」『世界の日本語教育．日本語教育論集』, pp. 114，独立行政法人国際交流基金

[6] 王燦娟(2013)『品詞と意味における二重誤用されやすい日中同形語に関する研究』(九州大学博士学位論文)，p. 13.

[7] 本研究では、賞賛、肯定的意味をもつ言葉を「褒義語」、批判、否定的意味を持つ言葉を「貶義語」、そのどちらでもない言葉を「中性語」とする。

[8] 王健宜・王彦良(1995)『日漢同形詞辨異詞典』, p. 46，商務印書館。

[9] 王永全・小玉新次郎・許昌福（2007)『日中同形異義語辞典』，pp. 141-142，東方書店

[10] ①庵功雄(2008)「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」『一橋留学生センター紀要』11，pp. 47-63
②五味・今村・石黒(2006)「日中語の品詞のズレ-二字漢語の動詞性をめぐって-」『一橋大学留学生センター紀要 9』，pp. 3-13

[11] 秦明吾(2005)『日漢同形異義詞詞解』, p. 292，中国建材工業出版社

[12] 共起の相違とは、同じ意味と品詞で使用される際に、取りうる共起語が異なることである。例えば、日本語と中国語の「整理」は同じ意味(乱れたものを秩序正しく整える)と同じ品詞(他動詞)で使用される際に、中国語では「整理頭髪」と言えるのに対し、日本語では「髪の毛を整理する」とは言えずに、「髪の毛を整える」と言う。

[13] 位相の相違とは、性別・年齢・職業等、社会集団や場面の相違に応じて言葉の相違が現れる現象である。典型的な例は「集める」と「収集する」、「運ぶ」と「運搬する」のような日常語と文章語の相違である。

[14] 小森他(2012)「中国語を第一言語とする日本語学習者の漢語連語と和語連語の習得―中国語と同じ共起語を用いる場合と用いない場合の比較―」『小出記念日本語教育研究会論文集 20』pp. 49-60

[15] この分類方法は、1978 年に文化庁によって出版された『中国語と対応する漢語』における漢字語分類法を参照したものである。同漢字語分類法によると、漢字語は以下の 4 種類に分けられる。
Same (S) 日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。
Overlap (O) 日中両国語における意味が一部重なっているが、両者の間にずれのあるもの。
Different (D) 日中両国語における意味が著しく異なるもの。
Nothing (N) 日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。

参考文献

1) 庵功雄(2008)「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」『一橋留学生センター紀要』11，pp. 47-63
2) 王永全他（2007)『日中同形異義語辞典』 東方書店
3) 大河内康憲（1992)「日本語と中国語の同形語」『日本語と中国語の対照研究論文集』下，pp. 411-447，くろしお出版
4) 王健宜・王彦良（1995)『日漢同形詞辨異詞典』 商務印書館
5) 王燦娟（2011)「日中同形語に関する研究 -「工作」の意味形成と異同をめぐって-」,『東アジア日本語教育・日本文化研究』第十四輯，pp. 69-96，東アジア日本語教育・日本文化研究学会
6) 王燦娟（2012)「品詞の相違による日中同形語の誤用に関する研究-二字漢語を中心に-」『日本語言文化研究』第二輯(上)，pp. 338-347，頁延辺大学出版社
7) 王燦娟(2013)『品詞と意味における二重誤用されやすい日中同形語に関する研究』(九州大学博士学位論文)
8) 王燦娟(2014)「中国人日本語学習者に見られる日中同形語の誤用について―意味、品詞、共起の誤用をめぐって―」,『東アジア日本語教育・日本文化研究』第十七輯，pp. 221-241，東アジア日本語教育・日本文化研究学会
9) 黄力游・林翠芳（2004)『日漢同形異義詞詞典』 外語教学与研究出版社
10) 五味・今村・石黒(2006)「日中語の品詞のズレ-二字漢語の動詞性をめぐって-」『一橋大学留学生センター紀要 9』，pp. 3-13
11) 小森他(2012)「中国語を第一言語とする日本語学習者の漢語連語と和語連語の習得―中国語と同じ共起語を用いる場合と用いない場合の比較―」『小出記念日本語教育研究会論文集 20』，pp. 49-60
12) 秦明吾（2005)『日漢同形異義詞詞解』 中国建材工業出版社
13) 小学館国語辞典編集部（2005)『日本国語大辞典（精選版)』 小学館
14) 張麟声（2004)『日中ことばの漢ちがい』 くろしお出版
15) 文化庁（1978)『中国語と対応する漢語』 大蔵省印刷局
16) 林玉恵（2002)「日華・日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点：同形類義語を中心に」『世界の日本語教育．日本語教育論集』，pp. 107-121，独立行政法人国際交流基金